# 令和５年度蒲刈中学校区研究推進計画

校番（２２）（　蒲刈中　）学校
校長名　　柿林　浩彦

１　学校教育目標
　　未来を拓く児童生徒の育成

２　目指す児童生徒像
　① 学んだことを実際の社会や生活で生きて働かせる児童生徒「知識・技能」
　② 未知の状況にも対応できる児童生徒「思考・判断・表現」
　③ 学んだことを人生や社会に生かそうとする児童生徒「自己の生き方を考える力」
　④ 郷土を愛し，協働して貢献できる児童生徒「協働的に関わる力」

３　育成を目指す資質・能力（具体の姿）

| 設定した資質・能力 | 知識及び技能 | 思考力，判断力，表現力等 | 学びに向かう力，人間性等 | |
|---|---|---|---|---|
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 自己の生き方を考える力 | 協働的に関わる力 |
| 児童・生徒像 目指す | 学んだことを実際の社会や生活で生きて働かせる児童生徒 | 未知の状況にも対応できる児童生徒 | 学んだことを人生や社会に生かそうとする児童生徒 | 郷土を愛し，協働して貢献できる児童生徒 |
| 具体的な力 | 身に付けた学習内容を他の学習や生活の場面で<br>活用できる。 | 知識及び技能を活用して，課題解決や未来を拓く行動ができる。 | 夢の実現に向けて自己の生き方を考え，よりよく生きるための行動ができる。 | 郷土や仲間を愛し，相手の気持ちを尊重して協働し，積極的に貢献できる。 |
| 後期 | ○社会人として必要なことはたくさんあることに気付き，その中で自分なりに大切にしていこうとすることをもつことができる（多様性）。<br>○課題解決のために，様々な立場の人たちが連携協力していることを知り，自らも共に地域貢献していくことの大切さを理解する（連携性）。<br>○自己の将来設計を達成するために，志をもち自らその実現のために行動していくことの大切さを理解することができる（責任性）。 | ○課題解決の計画に沿って，情報収集の方法を適切に選択でき，探究の過程での学習内容を批判的に整理・分析し，自分たちは何ができるのかを効果的にまとめ・表現・発信することができる。 | ○他者の生き方にふれながら，学びを自己の成長へと結び付け，よりよく生きようと考えている。 | ○学びの経験を社会の形成者としての自覚につなげ，積極的に社会参画しようとする。 |
| 中期 | ○探究課題に関わる種々な環境について多面的に見たり考えたりすることができる（多様性）。<br>○状況に応じて，課題解決のために互いに様々な協力がなされていることの大切さを理解できる。（連携性）。<br>○一人一人に責任と役割があることに気付き，自ら行動することの大切さを理解することができる（責任性）。 | ○課題解決のための情報について，収集方法及び収集した情報内容について，多面的・多角的な整理・分析ができ，目的意識，相手意識をもちながら，まとめ・表現することができる。 | ○自分にとって，学ぶことの意味や価値を考えることができ，自己の成長のための自己課題に積極的に取り組んでいる。 | ○互いのよさを生かしながら，学びの経験を実社会や実生活への興味関心とつなげ，進んで地域活動に参加しようとする。 |
| 前期Ⅱ | ○探究課題に関わる種々な環境には，さまざまな特徴があることに気付く（多様性）。<br>○課題に対して人々と協力しながら解決に努めていることに気付く（連携性）。<br>○自分の生活は，家族などの人々に支えられていることに気付くとともに，自らの夢をもつことができる（責任性）。 | ○調べたい課題を設定し，必要な情報を比較したり，関係付けたりして整理・分析し，相手を意識して表現することができる。 | ○自分の成長を自信につなげ，よりすてきな自分になるための自己課題に気付き取り組んでいる。 | ○学びの中で，互いのよさや違いに気付き，課題をよりよく解決するために協力しようとする。 |
| 前期Ⅰ | ○活動や体験の過程において，自分自身，身近な人々，社会及び自然の特徴やよさ，それらの関わり等に気付くとともに，社会生活上必要な習慣や技能を身に付けている。<br>※知識及び技能の基礎 | ○体験・観察等を通し，疑問等の気付きをもとに分かったこと及び自分の思いや考えを表現することができる。 | ○自分ができるようになったことに気付き，なりたい自分を思い描いている。 | ○学びの中で，友達を助けたりほめたりしようとする。 |

4　研究主題等

(1) 研究主題

学びを活かし課題解決を図る児童生徒の育成
～授業改善と地域の学びを通して～

(2) 設定理由（校区の児童生徒の課題分析等）

本中学校区は，蒲刈島と下蒲刈島の２島を校区としている。自然が豊かで人の営みが穏やかであり，地域の方は教育活動に対して協力的である。このような環境の中，児童生徒は落ち着いて学習に取り組んでいる。

昨年度の全国学力・学習状況調査から，児童生徒の学力等の現状や課題は次のとおりである。中学３年生では，国語科において全国平均を 4.0 ポイント，理科では 3.7 ポイント上回ったが，数学科において 2.4 ポイント下回った。小学６年生においては，理科は 0.7 ポイント上回ったが，国語科で 0.6 ポイント，算数科で 8.2 ポイント下回った。

昨年度の２学期末に行った児童生徒アンケートの「授業やその他の学校生活で，自分の思いや考えを相手に分かりやすく表現することができたか。」では，目標値を小学校，中学校とともに 80.0％に設定したが，結果は小学校が 73.2％，中学校が 59.3％であり，達成度は小学校が 91.5％，中学校が 74.1％となった。小学校では，全体の場で発表をする場を設けたことで自信をもって自己表現できる児童が増えた。中学校では理由や根拠を挙げながら，自分の考えを述べることが十分にはできておらず，教科の授業では専門用語を正しく使って説明させることなどが必要である。また，小中学校とも，発表の声が小さい等，相手意識をもって表現することは十分とはいえない。

また，同様の児童生徒アンケートの「地域のために自分にできることを考え行動したか。（地域貢献）」では，目標値を小学校，中学校とともに 90.0％に設定したが，結果は小学校が 80.5％，中学校が 82.0％となり，達成度はどちらもほぼ 90.0％となった。「自分にはよいところがある。人の役に立ったことがある。（自己肯定感）」では，目標値が小学校，中学校とともに 90.0％であり，結果は小学校 80.5％，中学校 88.5％となり，達成度は小学校が 89.4％，中学校が 98.3％となった。目標は達成できていないが，小学校，中学校とも達成度は高くなっている。総合的な学習の時間における「ふるさと学習」の異校種・異学年交流の取組により，自己肯定感は行事等の事後は向上するものの日々の生活において継続することが難しい面がある。

そこで，前述の課題を克服し，児童生徒が社会や世界に向き合い関わりながら，自らの人生を切り拓いていくことができるよう，本年度も９年間を見通した教育目標を「未来を拓く児童生徒の育成」とした。そして，育成する資質・能力に基づき，目指す児童生徒像を明確にし，蒲刈中学校区の特徴である「ふるさと学習」を推進し，資質・能力の育成を目指す。また，「学びを活かし課題解決を図る児童生徒の育成～授業改善と地域の学びを通して～」を研究主題に設定し，『伸ばす学力部会』『育む心部会』の２つの部会で研究主題に迫るとともに，本中学校区の課題の克服を図る。

具体的には，『伸ばす学力部会』において，教科等の本質を踏まえ，「主体的・対話的で深い学び」のための子どもの問いを生かした「課題発見・解決学習」と深い理解を伴った習得を目指す「教えて考えさせる授業」を推進する。

単元等を貫く本質的な問いを設定したり，子どもの問いを生かした「考える授業づくり」を行ったりすることで，目指す児童生徒の姿に迫る授業改善を更に推進し，学力の向上を図る。

また，授業において自分の思いや考えを相手にしっかりと伝える場を重ねながら，朝会や集会活動，生徒会・児童会活動，特別活動等においても自分の思い等を伝える場の設定に継続して取り組

む。そのことによって，自分の思いや考えを相手に分かりやすく伝えること（自己表現）ができる力を更に身に付けさせる。

『育む心部会』においては，総合的な学習の時間のカリキュラムである「ふるさと学習」を更に充実させ，「主体的・対話的で深い学び」を推進する。「ふるさと学習」によって，住んでいる地域の良さを再発見し，児童生徒が「地域のために自分にできることは何か。」という問いに立ち返りながら考え行動することで，自己表現の力や自己肯定感の向上を図る。また，遠足，運動会等の小中合同行事のみならず，生徒会や児童会が中心となった学校朝会に取り組む等，日頃の学校生活の中でも児童生徒が「お互いを認められる」「役割を果たす」「達成感を醸成する」ことができる場を設けながら，異校種・異学年交流を進め，自己肯定感を向上させる。

以上のことから，本主題を設定した。

(3) 研究仮説

①教科等の本質を踏まえ，「課題発見・解決学習」や「教えて考えさせる授業」を行うことで，「主体的・対話的で深い学び」を高められるであろう。【授業改善】
②自分の思いや考えを自己表現する場を様々な場面で設けることによって，相手に分かりやすく表現する力が身に付くであろう。【自己表現】
③「ふるさと学習」などにより，地域のために自分にできることを考え行動することや異校種・異学年交流によって，自己肯定感を高められるであろう。【自己肯定感】

5　研究内容

①『伸ばす学力部会』
ア　授業改善による学力向上（「課題発見・解決学習」や「教えて考えさせる授業」の充実）【授業改善】
イ　自分の思いや考えを自己表現することができる授業等【自己表現】

②『育む心部会』
ア　「ふるさと学習」の充実【授業改善】【自己表現】【自己肯定感】
イ　自己肯定感を向上させる異校種・異学年交流の充実【自己肯定感】

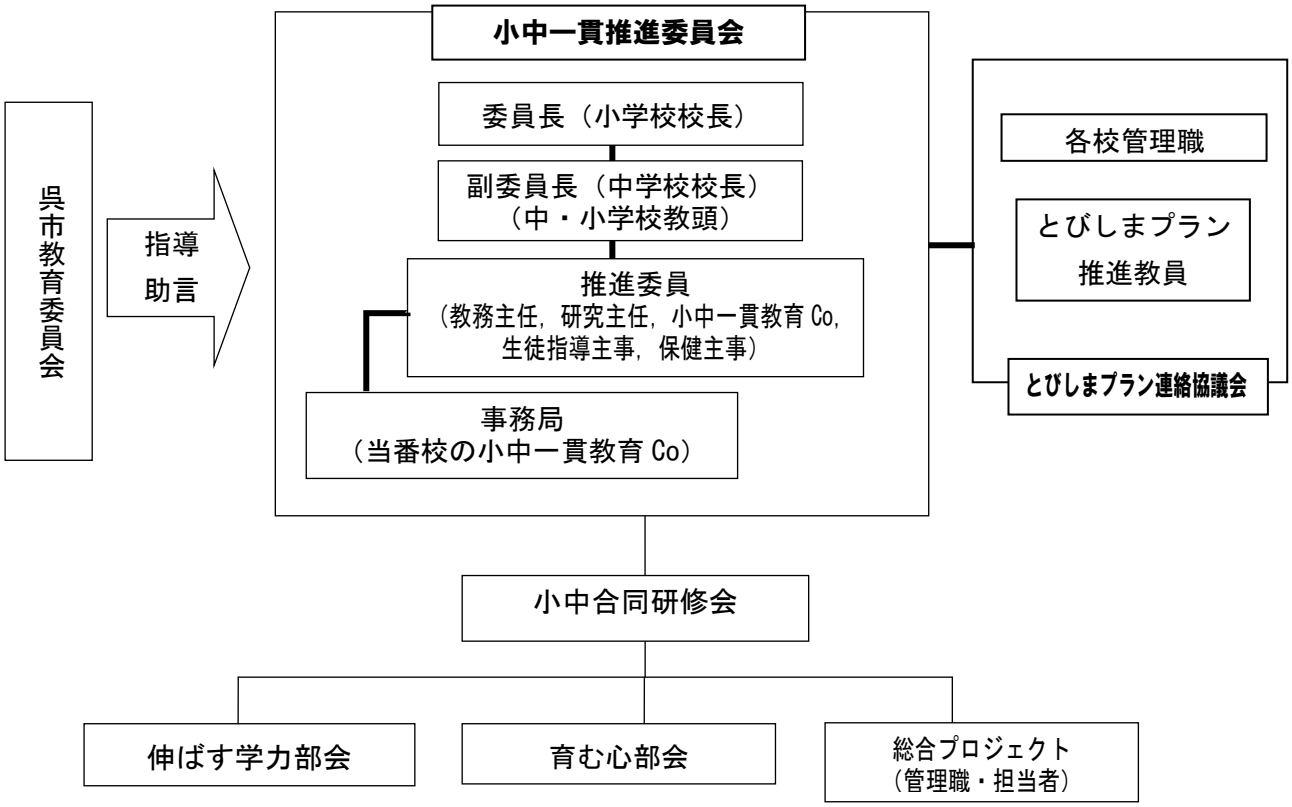
6　検証について

| 検証の視点 | 方法 | 検証の指標 | 現状値 | 達成目標 |
|---|---|---|---|---|
| ①　「主体的・対話的で深い学び」を高めることができたか。 | 授業参観シート | 研究授業における教職員の相互評価値の平均（４段階評価） | 小 3.2<br>中 3.5 | 3.2以上 |
| | | 教職員の学期ごとの自己評価（４段階評価で集約） | ― | |
| | 小６，中３対象<br>全国学力・学習状況調査（国語，算数，数学，理科） | 全国平均との差 | 小国語 −0.6<br>中国語 +4.0<br>小算数 −8.2<br>中数学 −2.4<br>小理科 +0.7<br>中理科 +3.7 | 全国平均との差<br>小国語 +6.0<br>中国語 +5.0<br>小算数 +5.0<br>中数学 +5.0<br>小理科 +5.0<br>中理科 +5.0 |
| | 小全員，中１・２対象<br>標準学力調査 | 全国平均より高い人数の割合 | 小 59.7%<br>中 52.2% | 全国平均より高い人数の割合が60%以上 |

| 検証の視点 | 方法 | 検証の指標 | 現状値 | 達成目標 |
|---|---|---|---|---|
| ② 自分の思いや考えを，相手に分かりやすく表現することができたか。 | 児童生徒アンケート | 児童生徒の肯定的評価（４段階評価） | 小 73.2%<br>中 59.3% | 80% |
| | 教師アンケート | 教員の肯定的評価（４段階評価） | 小 80.0%<br>中 66.7% | 80% |
| ③ 地域のために自分にできることを考え行動したか。(地域貢献) | 児童生徒アンケート | 児童生徒の肯定的評価（４段階評価） | 小 80.5%<br>中 82.0% | 90% |
| ④ 異校種，異学年との交流を通して，自己肯定感を高めることができたか。（自己肯定感） | 児童生徒アンケート | 児童生徒の肯定的評価（４段階票） | 小 80.5%<br>中 88.5% | 90% |

7　推進体制等

(1) 推進組織




| 伸ばす学力部会 | | 育む心部会 | |
|---|---|---|---|
| 代表（中）　津村　卓也 | | 代表（小）　髙原　みさ | |
| 小学校 | 中学校 | 小学校 | 中学校 |
| 校長　山本　智文<br>末長　直子<br>越智　しのぶ<br>木下美和子 | 教頭　藏本　辰英<br>津村　卓也<br>浅谷　由樹<br>岡崎　佑哉<br>石丸　隆子<br>平原　信二<br>八重垣　遥 | 教頭　的場　秀騎<br>髙原　みさ<br>二川　美佳<br>清水　克哉 | 校長　柿林　浩彦<br>佐々木　祐介<br>上田　真梨子<br>本間　伸一<br>後藤　亜由美<br>松本　明日香 |

※小中一貫推進委員会の委員長，副委員長は隔年で変更する。

(2) 一部教科担任制実施計画
ア 乗り入れ授業等（中→小）
・理科（６年）　・保健体育（５，６年）
イ 小学校教科担任制等
なし

８　推進計画

| 月 | 日 | 曜 | 内容 |
|---|---|---|---|
| ４ | ４ | 火 | 推進委員会①ＰＭ（小中一貫教育推進計画，合同遠足，合同参観日，合同運動会） |
| ４ | ７ | 金 | 合同研修①ＰＭ（小中一貫教育推進計画，合同遠足，合同参観日，合同運動会） |
| ４ | ３０ | 日 | 合同参観日（ＰＴＡ総会） |
| ５ | １ | 月 | 合同遠足（下蒲刈・大津泊庭園） |
| ５ | １１ | 水 | 推進委員会②（合同遠足まとめ，合同参観日まとめ，合同避難訓練，合同運動会） |
| ５ | １５ | 月 | 合同研修②（合同遠足まとめ，合同参観日まとめ，合同避難訓練，合同運動会） |
| ５ | １９ | 金 | 合同避難訓練（土砂） |
| ５ | ２４ | 水 | 合同運動会予行 |
| ５ | ２８ | 日 | 合同運動会 |
| ６ | １６ | 金 | 推進委員会③（合同運動会まとめ，授業研究） |
| ６ | １３ | 火 | 授業研究①（小学校研究授業指導案検討） |
| ６ | ２１ | 水 | 授業研究②（小学校研究授業）<br>講師　広島大学附属東雲小学校　校長　松浦　武人 |
| ７ | ４ | 火 | 小中合同朝会① |
| ７ | ３ | 月 | 推進委員会④（合同運動会まとめ，授業研究まとめ，各部会の学期まとめ） |
| ７ | ２１ | 木 | 合同研修③（合同運動会まとめ，授業研究まとめ，各部会の学期まとめ） |
| ８ | ３０ | 水 | 推進委員会⑤（発表会） |
| ９ | ２９ | 金 | 推進委員会⑥（合同避難訓練） |
| １０ | ３ | 火 | 小中合同朝会①，小中一貫教育だより①（担当：小学校） |
| １０ | ４ | 水 | 授業研究③（中学校研究授業指導案検討）<br>講師　東京大学　准教授　植阪　友理 |
| １０ | １１ | 水 | 授業研究④（中学校研究授業）<br>講師　東京大学　准教授　植阪　友理 |
| １０ | ２０ | 金 | （合同研修④（前日合同準備））←合同開催でないなら必要ない？ |
| １０ | ２２ | 日 | 蒲刈中学校区学習発表会←小学校の日程は11/18の予定（未決定） |
| １１ | ２ | 木 | 合同避難訓練（地震津波） |
| １１ | ７ | 火 | 推進委員会⑦（発表会まとめ）←小学校の日程によって変動 |
| １ | １０ | 水 | 推進委員会⑧（各部会の年間まとめ） |
| １ | ２６ | 金 | 合同避難訓練（火災）←合同開催か検討中 |
| ２ | ２ | 金 | 推進委員会⑨（来年度の小中一貫教育推進計画） |
| ２ | １９ | 月 | 合同研修⑤（各部会の年間まとめ，来年度の小中一貫教育推進計画） |
| ２ | ２７ | 火 | 小中一貫教育だより②（担当：中学校） |
| ３ | ４ | 月 | 推進委員会⑩（来年度に向けて） |

９　その他
・小中一貫教育だより（１０月，２月の年２回発行予定）
**※　研究構想図，カリキュラムマップを添付する。**